

大阪府森林整備指針 検討資料

大阪府森林審議会
第一回 森林整備指針検討部会

前回の振り返り

大阪府森林整備指針について

- } 平成31年度から、
 - ・森林経営管理法が施行
 - ・森林環境譲与税(仮称)が譲与
⇒市町村の役割がますます大きく

- } 将来の望ましい森林の姿と、それを実現するための技術的な手法等を示す「大阪府森林整備指針」を平成30年度中に策定する。

前回の振り返り

用語の定義について

- } 育成単層林: 森林を構成する林木を皆伐により伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。例えば、植栽によるスギ・ヒノキ等からなる森林
- } 育成複層林: 森林を構成する林木を帯状若しくは群状又は単木で伐採し、一定の範囲又は同一空間において複数の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。例えば、針葉樹を上木とし、広葉樹を下木とする森林
- } 天然生林: 主として天然力を活用することにより成立させ維持される森林。例えば、天然更新によるシイ・カシ・ブナ・コメツガ・シラビソ・エゾマツ・トドマツ等からなる森林

出展: 森林・林業基本計画(平成28年5月)

大阪府森林整備指針の構成(案)

1. はじめに
2. 森林・林業をとりまく動き
3. 大阪府の森林・林業の現状

前回の説明事項

4. 森林区分の設定
 - (1)大阪府域の森林の現況
 - (2)森林区分の条件の検討
 - (3)森林区分の設定

今回の議事事項

5. 森林区分ごとの保育・管理手法
6. 活用のロードマップ
7. おわりに

次回以降の
議事事項

4(1)大阪府域の森林の現況

} 現況把握のため、衛星画像を用いて、6m×6mメッシュごとに森林を以下の9区分に分類した。

- ・スギ
- ・ヒノキ
- ・落葉広葉樹
- ・常緑広葉樹
- ・竹林
- ・マツ林
- ・水面
- ・伐採跡地
- ・その他

} 解析に用いた衛星画像

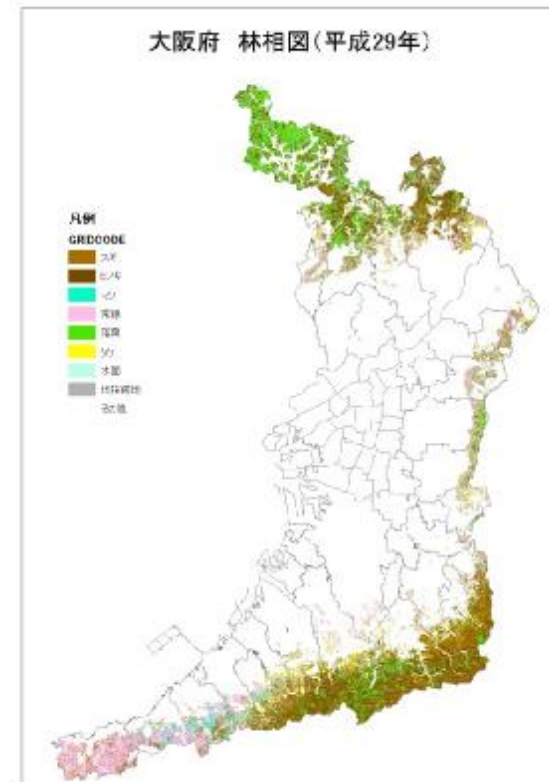
・SPOT6&7 1.5m分解能

夏：平成29年6/9,14 8/20,27

冬：平成27年12/2,30

平成28年2/25

平成29年1/10



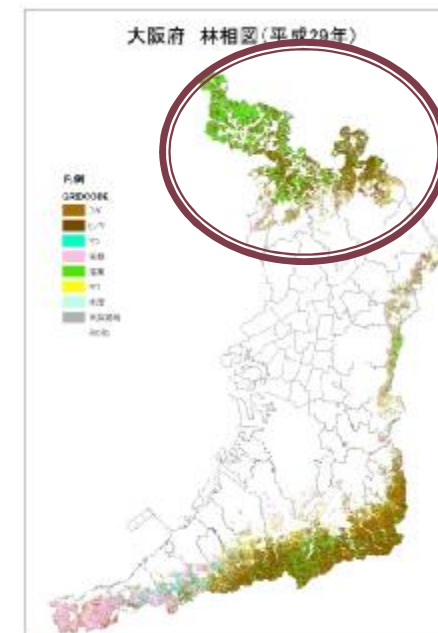
1. 豊能・三島地域の森林の現況

【基礎データ】

- 森林面積: 17,765ha
- スギ・ヒノキ人工林面積(率): 7,557ha(43%)

【特徴】

- 豊能地域では落葉広葉樹林が優先。
- 野生シカの被害が府内で唯一見られる
- 都市部に近い森林は、常緑広葉樹林と竹林が広がっている



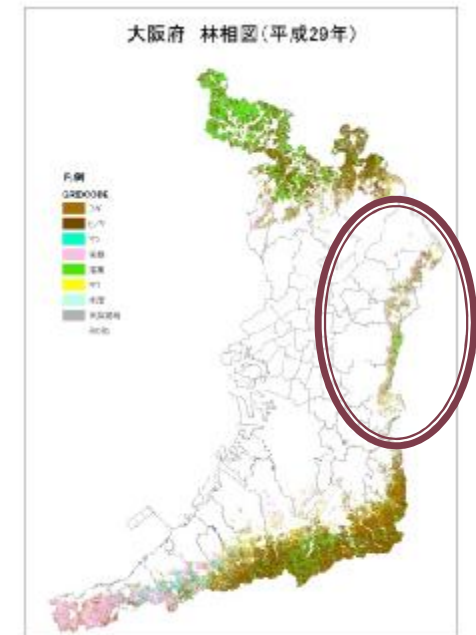
2. 中部地域の森林の現況

【基礎データ】

- 森林面積: 4,230ha
- 人工林面積(率): 732ha(17%)

【特徴】

- 府民の森(600ha)が整備され、レクリエーション利用が盛ん
- 大半が常緑広葉樹林
- 落葉広葉樹林では、ナラ枯れ被害が見られる



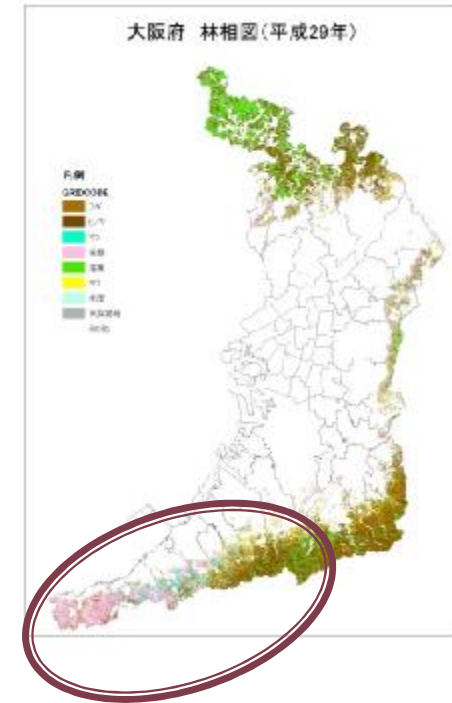
4. 泉州地域の森林の現況

【基礎データ】

- 森林面積: 16,170ha
- 人工林面積(率): 5,606ha(35%)
- 竹林面積(率): 1,041ha(6%)

【特徴】

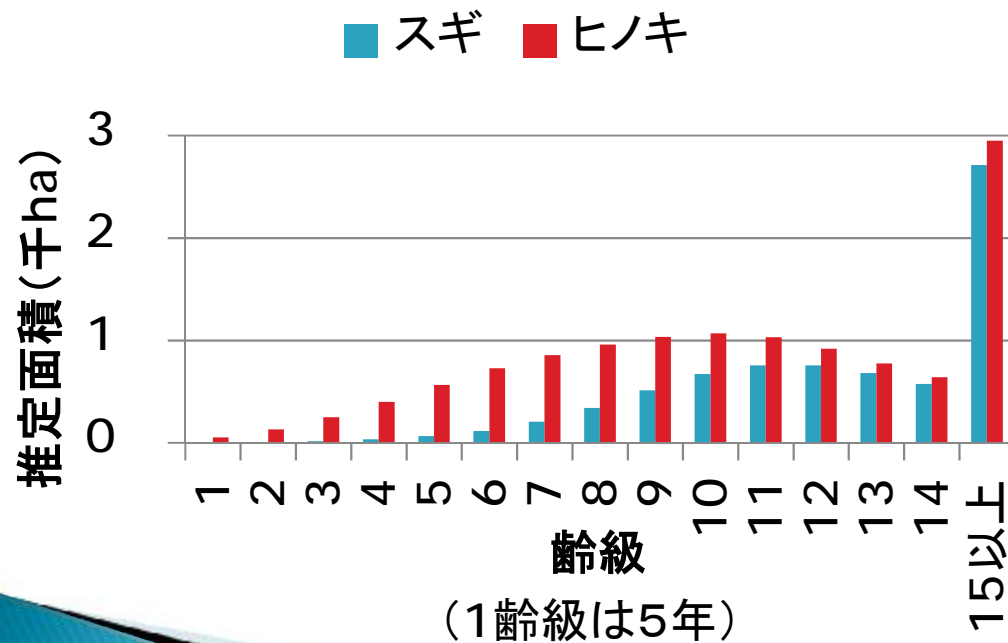
- 東部地域はスギ・ヒノキ人工林が優先
- 市街地に近接する箇所は竹林が広がる
- 泉南市にマツ林が見られる



①スギ・ヒノキ 人工林

【基礎データ】

- 現在の推定面積：22,400ha
- 森林経営計画面積：3,600ha
- 齢級構成：



【現況】



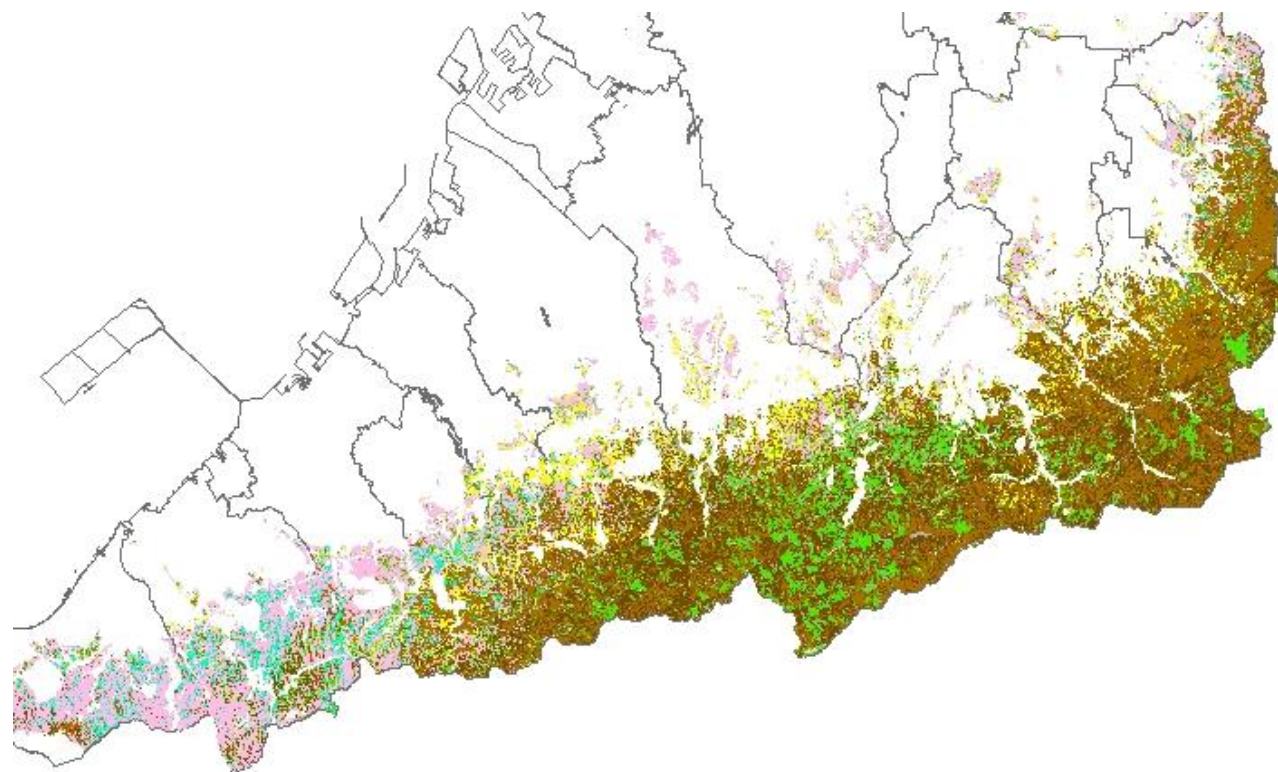
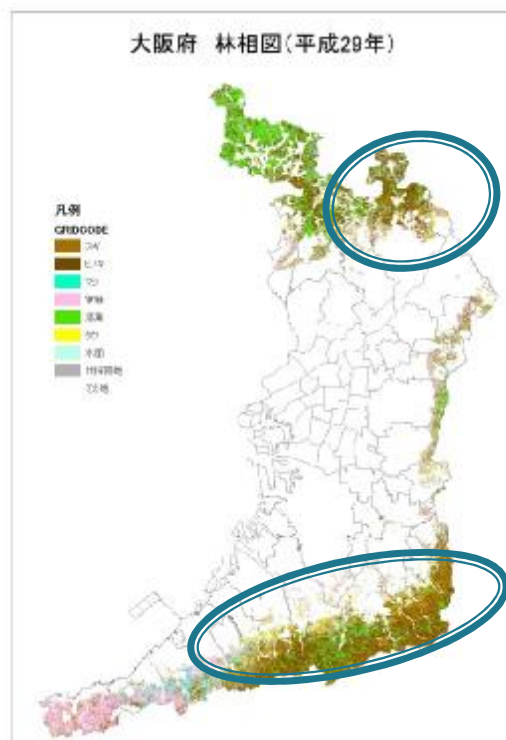
手入れされた人工林



間伐が遅れている人工林

①スギ・ヒノキ 人工林

【分布】

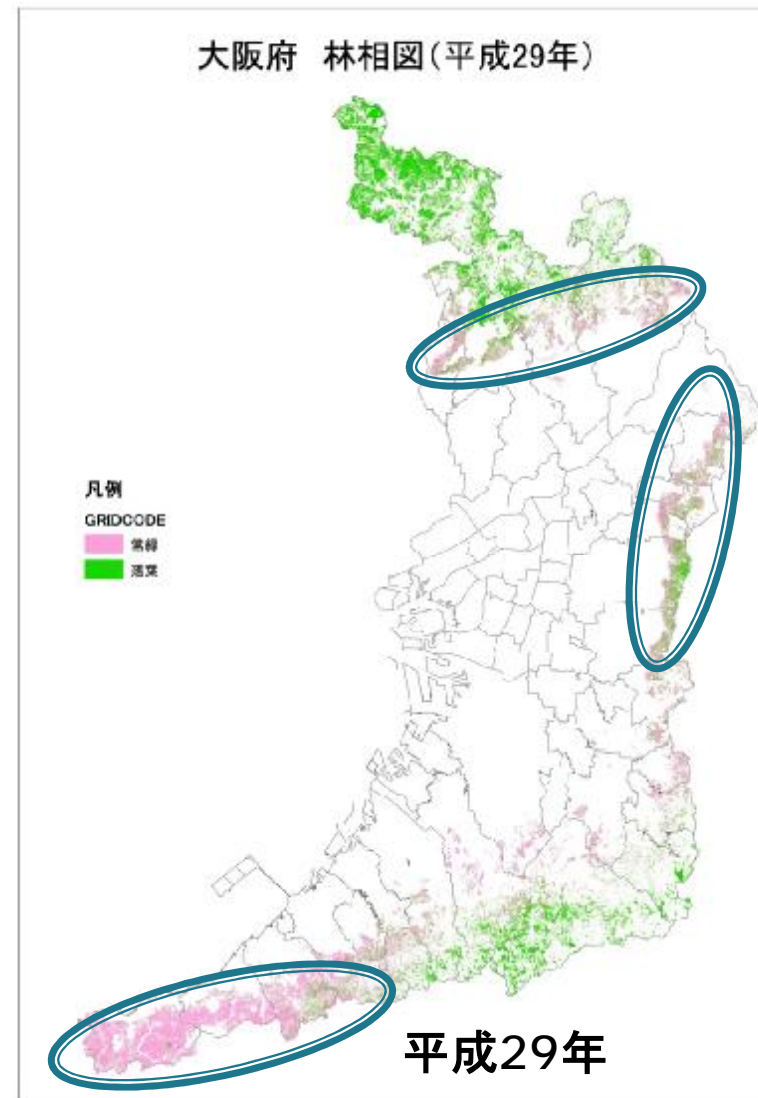
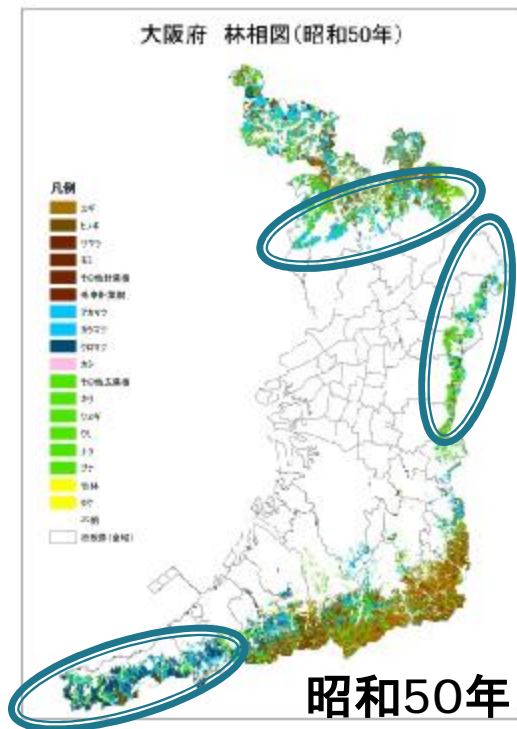


三島地域では、昭和50年時点でのマツ林の多くがスギ・ヒノキ人工林に転換。南河内～泉州東部は古くからの林業地であり、森林区域の大半を占める。

③常緑広葉樹林

【基礎データ】

現在の推定面積：13,700ha

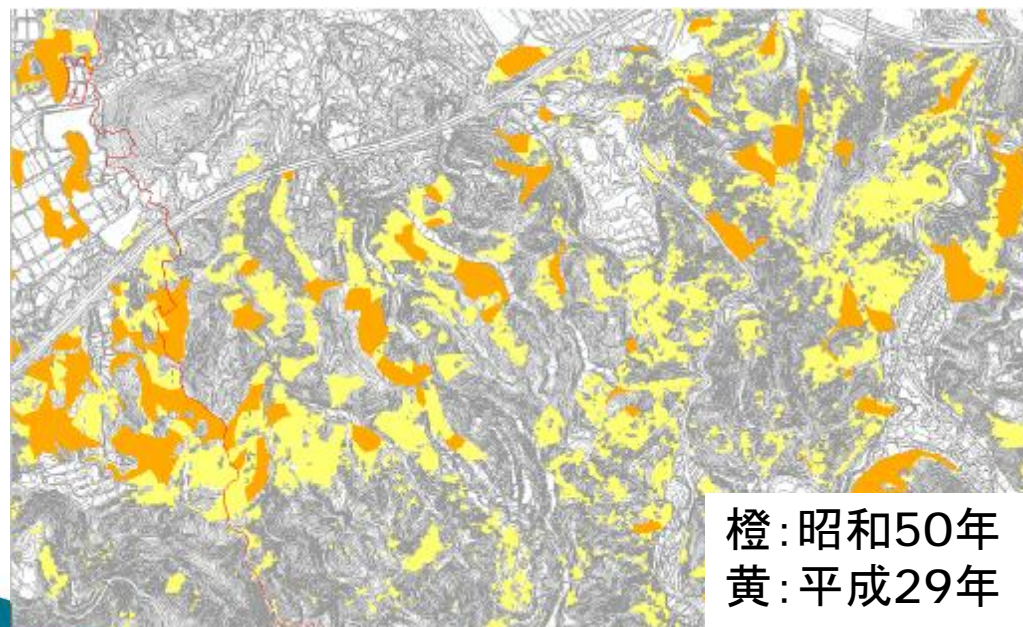


豊能・三島の南部及び泉州西部では、かつてのマツ林が常緑広葉樹林に遷移。生駒山では、落葉広葉樹林が、常緑広葉樹林に遷移しつつある。

④竹林

【基礎データ】

- 現在の推定面積：2,900ha
- 大阪府内で見られるのは、モウソウチクとマダケ



岸和田市付近の竹林拡大の様子

【現況】



山を覆いつくす竹林



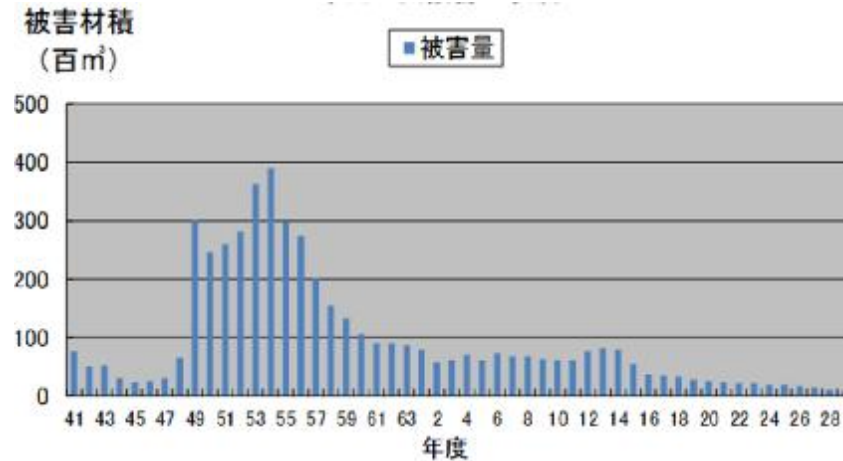
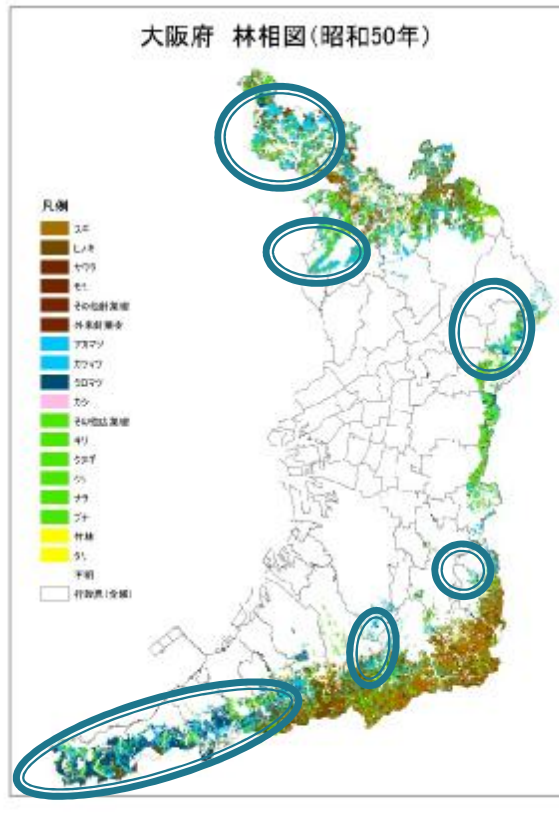
放置された竹林

⑤ マツ林

【基礎データ】

- 現在の推定面積: 1,200ha

【過去の分布】



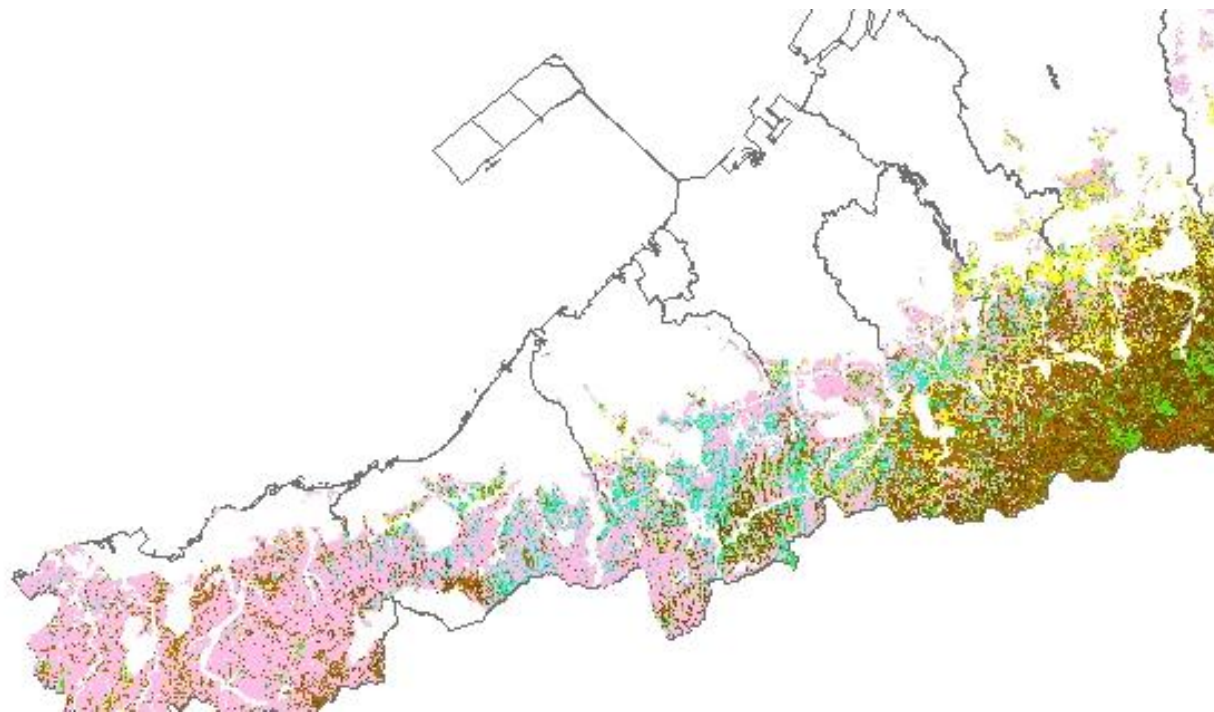
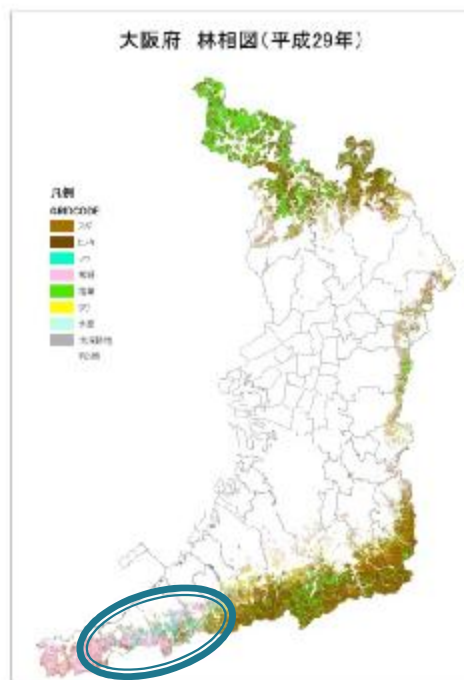
マツ枯れ被害の状況



マツ枯れ被害跡地

⑤ マツ林

【分布】



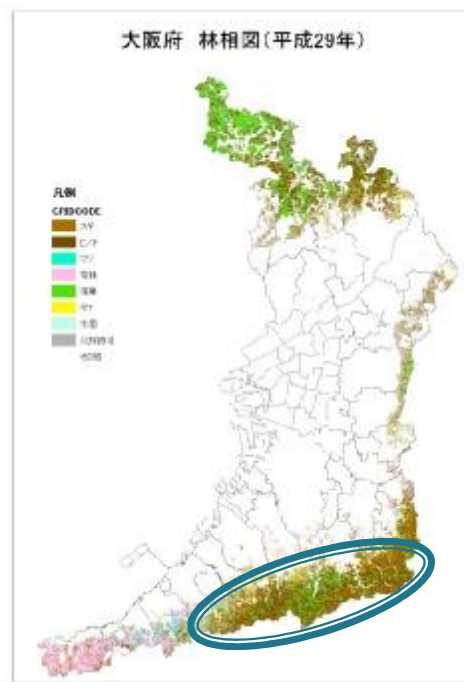
かつては府全域で見られたマツ林が、マツ枯れによりほとんどがマツ以外の森林に替わっている。現在まとまった面積としては、泉州西部地域で見られる。

針広混交林

【基礎データ】

- 平成10年度の台風による風倒被害跡地に、ケヤキを混植（ヒノキ：ケヤキ＝7：3）。現在10～20年生。

【分布】



【現況】

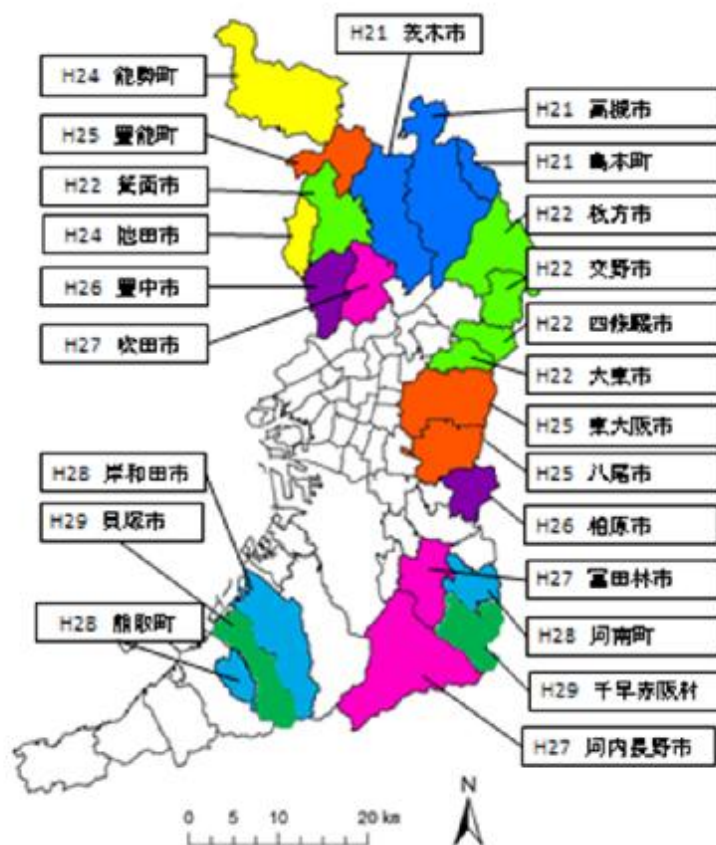


植栽後約15年の混交林

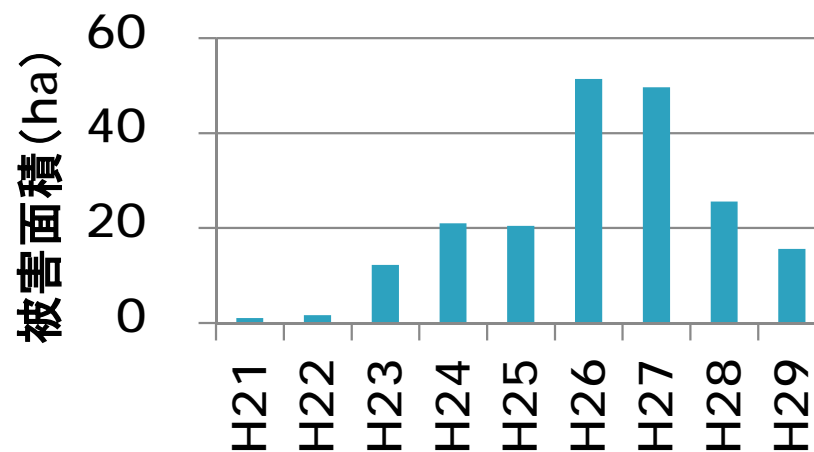
ナラ枯れ被害

【基礎データ】

- 推定面積: のべ198.3ha
- 被害箇所



【被害の推移】



【状況写真】



道路沿いの被害地

風倒木被害

【基礎データ】

- 平成30年台風21号により甚大な風倒木被害が発生
- 推定面積: 720ha

【現況】



高槻市桜田地区の被害

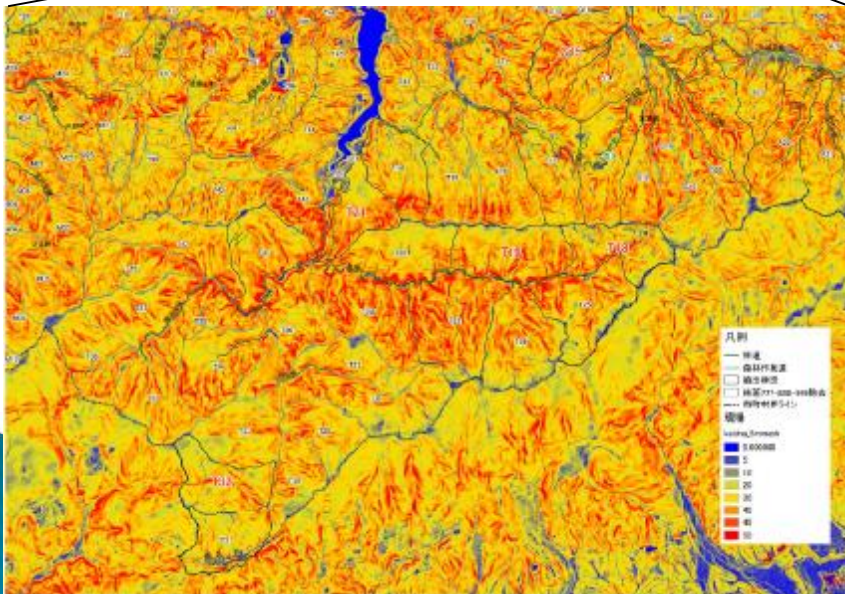
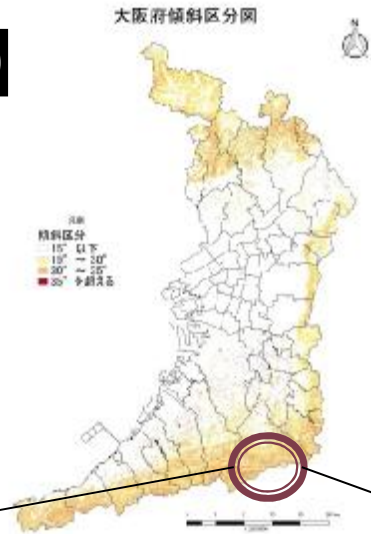


高槻市出灰地区の被害

4(2)森林区分の条件の検討

①地形(傾斜)

【分布図】



【林業適地とする条件】

・車両系の搬出が効率的とされている「傾斜35°」までを林業適地とする。

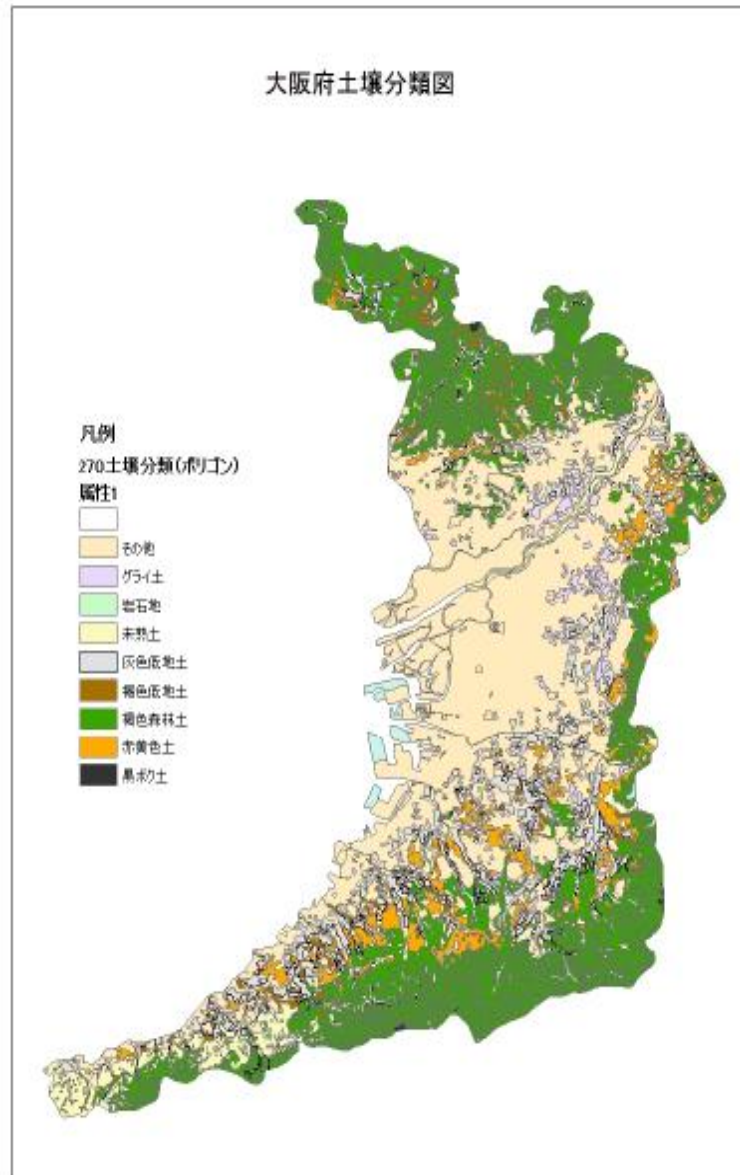
路網整備の目標とする水準

区分	作業システム	路網密度
緩傾斜地(～15°)	車両系	100m/ha以上
中傾斜地 (15°～30°)	車両系	75m/ha以上
	架線系	25m/ha以上
急傾斜地 (30°～35°)	車両系	60m/ha以上
	架線系	15m/ha以上
急峻地(35°～)	架線系	5m/ha以上

資料:「全国森林計画」(平成28年5月)

② 土壌

【分布図】



【林業適地とする条件】

・植物の生育に適していると考えられる「褐色森林土」を林業適地とする。

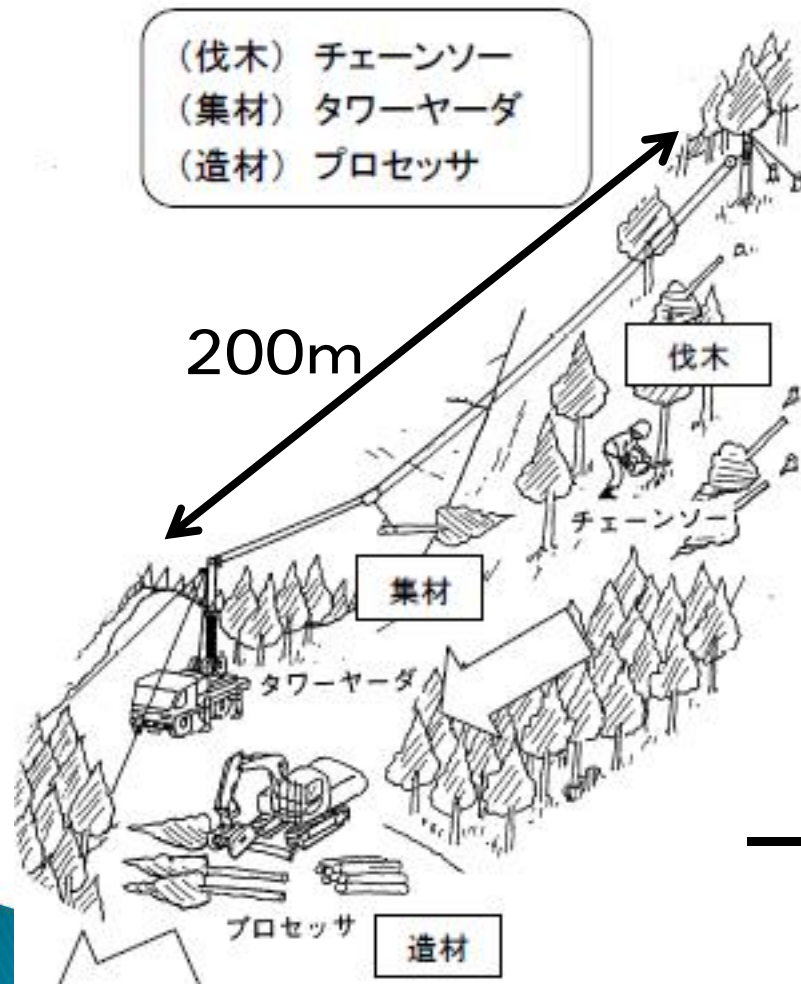
<褐色森林土>

腐植を含む暗色～黒色のA層の下に酸化鉄の褐色によって特徴づけられるB層があり、母材のC層は各種岩石または砂礫堆積物であって特定の母材にかぎらない。

出典 ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典

③路網からの距離

【参考図】



【林業適地とする条件】

- ・車両系(タワーヤーダ)で集材できる範囲である「路網から200m以内」を適地とする。

集材距離(路網密度)に応じた効率的な集材方法の選択

平均集材距離	路網密度	選択する集材機械の特徴
~25m	175m/ha~	ハーベスタ、グラップルは、高密路網を活用することにより、道端からの伐採・集材に効率的
~100m	44m/ha~	スイングヤーダは主索を張らない簡易索張りであり、短距離・急傾斜地の集材に効率的
~200m	22m/ha~	タワーヤーダは主索を張らない簡易索張りであり、中距離・急傾斜地の集材に効率的
200m~	~22m/ha	集材機は架線の架設、撤去に多くの時間と労力を要するが、長距離の集材が可能

望ましい作業システムの考え方(林野庁より)

4(3)森林区分の条件設定

4(2)をふまえ、林業適地区分を行う条件は以下のとおり

